

平成28年度 第1回京都市保健所運営協議会 摘録

平成28年 4月26日(火)
午後2時00分～午後3時40分
京都ロイヤルホテル&スパ 麗峰

1 出席者 (敬称略)

関係団体代表委員 京都府医師会：禹 満 京都府歯科医師会：岸本 知弘
京都府薬剤師会：三上 由美 京都市保健協議会連合会：堺 紀恵子

各保健センター運営 北：塚田 英昭 上京：(欠 席) 左京：(欠 席)
協議会代表委員 中京：辻 輝之 東山：中村 良雄 山科：(欠 席)
下京：(欠 席) 南：宮脇 義隆 右京：福州 修
西京：赤星 平直 伏見：三上 茂文

各保健センター 北：藤田 美幸 上京：前田えり子 左京：井上 達也
健康づくり推進課長 中京：下林 武 東山：藪 恵子 山科：中村 文保
下京：林 浩子 南：細井 嘉代子(代理) 右京：木村 和史
西京：櫻井 明弘 伏見：三宅 貞幸

<事務局>

保健所 京都市保健所長：谷口 隆司 京都市保健所次長：松田 一成
生活衛生担当部長：中谷 繁雄 保健担当部長：吉山 真紀子
(保健医療課) 保健医療課長：志摩 裕丈 健康危機対策担当課長：中村 正樹
企画係長：山本 洋平 係員：太田 隆幸, 川添 尚子
(医務衛生課) 医務衛生課長：藤川 創 生活衛生担当課長：仲 俊典

2 開催あいさつ

谷口所長： 本日御出席の皆様におかれては、日頃から、京都市の保健衛生行政に多大な御支援、御協力を賜っているところであり、改めまして御礼申し上げます。

今般の熊本地震では40数名の尊い人命が失われた。心より哀悼の意を表する。また、今なお数多くの被災者の方々が慣れない避難所での避難生活を余儀なくされておられるが、本市では本震翌日の17日から、最大震度7を記録した益城町に保健師を派遣しており、4名の保健師が被災者の健康調査や健康相談、心のケアに当たっている。さらに保健医療の分野においては、現在は撤収しているが京都市立病院からもDMATを1チーム派遣した。本市としては地震から2週間を迎えるが、引き続き現地で保健活動を通じた被災者支援を進めていく。

また、今年度の保健所運営方針においては、少子高齢化が進展する中、健康長寿の延伸に向けた取組の本格的なスタートや、切れ目のない子育て支援による少子化対策の取組等、重点取組を掲げている。

本日も、委員の皆様からの忌憚のない御意見をいただき、これらの取組の一層の推進につなげて参りたいと考えており、よろしく御願い申し上げます。

3 議事

(1) 平成28年度京都市保健所関係予算概要について

(2) 平成28年度京都市保健所運営方針(案)について

(3) 事業等説明

ア 「第2期京都市食の安全安心推進計画」の策定について

イ 「健康長寿のまち・京都食育推進プラン」の策定について

ウ 「京都市動物愛護行動計画」の改定について

エ 避難所におけるペットの受入体制の整備について

オ 「健康長寿のまち・京都市民会議」の正式発足及び京都市健康大使の就任について

○ 資料に基づき、事務局から説明

○ 質疑・応答等

塚田委員：健康長寿の取組であるが、糖尿病等の生活習慣病に要する医療費は莫大である。市民のBMIの状況及び喫煙率の状況はどうか。

また、医療機関、保健センター等での外国語の対応状況等分かれば教えてほしい。

谷口所長：本市が実施している特定健診の受診者から見た状況ではBMIは中年男性で増加傾向である。若い女性は逆に全国平均を下回り、やせ傾向にある。

禁煙率は少しずつ全体として減少傾向である。外国人向けの医療体制については、総合病院等では独自に通訳を雇うなどして対応されている。

吉山部長：保健センターにおいては外国人のために母子保健通訳派遣事業を実施している他、母子健康手帳等、外国語版を作成しているものもある。

中村委員：熊本の地震災害を受けてであるが、災害時において医師会等に求められる役割は何か。

谷口所長：まずは初期段階における医療体制についてであり、地区医師会とも連携しながらDMATの受入等を進めていく必要がある。現在、京都府医師会の災害対策小委員会について、本市としてもオブザーバー参加しているところであり、引き続き医師会と連携して対策を検討してまいりたい。

禹会長：京都府医師会としても災害対策のマニュアルを策定したところだが、各地区の状況は異なるため、今後、各地区ごとのマニュアルの策定が必要である。医師会としても熊本にJMATを派遣しているが、自衛隊も入らないような地域で安否確認に従事する等、本来の活動ができていないと聞いている。

保健センターが中心的な役割を果たしていくべきであり、行政職員も被災する等、想定外も想定し、災害対策を検討していく必要がある。今後、各保健センターの運営協議会においても議論いただきたい。

宮脇委員： 不妊治療費の初回助成額が30万円に引き上げられたことは評価する。結婚年齢が上昇している中で効果的な取組である。

一方、子宮頸がんワクチンの予防接種は未だ中断されたままである。欧米では子宮頸がんの患者は減少しているが、このままでは我が国だけがOECD諸国の中で子宮頸がんが課題として残ることとなる。子宮がん検診の受診率向上のために、市の取組をしっかりとしていただきたい。

吉山部長： 子宮頸がんワクチン予防接種については全国で重篤な副反応が生じたことを受け、平成25年以降現在に至るまで、厚労省において積極的な接種勧奨の差し控えを継続しているところである。

委員御指摘のとおり子宮がん検診の受診率向上は大きな課題であると認識しており、本市としてもがん検診無料クーポン券の配布の取組のほか、今年度から新たに保健医療システムを活用してより未受診者への勧奨等、コール・リコールの取組を推進するとともに、精密検査が必要な方への勧奨もより迅速に行っていく。

赤星委員： 本日はいろいろな取組について聞くことができ、大変勉強になった。

三上（茂）委員： 食育推進プランでは昔ながらの食事の団らんのことが書かれており、素晴らしいと思う。ライフスタイルが多様化する中で、ファーストフードや栄養ドリンクに依存するなどして、こうした理想が実現されておらず残念に感じている。

是非このプランが掲げる目標どおりに進むよう、努力していただきたい。

堺委員： 学区で避難訓練もしているが、今回報告のあった避難所におけるペットの取組を参考にして、学区に持ち帰って具体的に検討してまいりたい。

三上（由）委員： 保健所運営方針で説明のあった「次世代はぐくみプロジェクト」であるが、大学生のボランティアを活用した保健対策について、少し詳しく説明いただきたい。

吉山部長： 中高生を対象として赤ちゃんの人形を使ったり妊婦体験を行ったりするなどの体験型の保健教育を実施するもので、その中で看護系学部の大学生ボランティアとも連携した取組を行うことで、友人同士にも取組を広げていく効果を期待している。

岸本副会長： 地元の歯科医師会では、薬剤師会や市とも連携して災害時に備えて関係施設の所在地マップの作成や物流及び備蓄品のあり方等の検討を始めていた矢先に今回の熊本の災害が起きてしまった。今後、より拍車をかけて検討していきたい。

禹会長： 今回の熊本地震では日本薬剤師会がモバイルファーマシーと言って、医薬品を一括して供給する大型車両を投入している。これによって東日本大震災など、ずいぶんこれまでの災害の状況とは異なり、医薬品が供給されるようになった。京都府薬剤師会も多くの医薬品を被災地に持って行ったが、ほとんど使わなかったと聞いている。

禹会長： 各保健センターにおいてBCGの集団接種が行われているが、接種部位が悪い。上腕外側に接種すべきところ、下の方で接種されている事例が多く、他の予防接種の接種に影響する。最初にアルコール消毒を行う看護師が原因ではないかと思っております、確認いただきたい。

BCGは一生接種痕が残るが、京都市は人口移動も多く、他都市に転出した後で、京都で接種したと分かれば京都のマイナスイメージになる。是非、個別に研修等も実施していただきたい。

4 閉会あいさつ

松田次長： 本日も貴重な御意見，御助言を多く賜り感謝申し上げます。

度々話題に上った熊本地震への対応の件については，私どもも発生間もなくの時期に保健師を派遣したが，役所や職員も被災しており，代替機能を果たることとなった保健福祉センターにも多くの避難者がおられるなど，非常に混乱した状況にあり，本市の保健師が避難者の名簿を作成するところから始めなければならなかった。

こうした経験が本市で震災があったときにつながるものと考えている。また，本市では安否確認，物資受入，ボランティアの調整など，部署ごとの役割分担を定めているが，医師会をはじめ関係機関ともしっかりと連携し，想定外の事態が起きても現実的な対応がとれるよう努めてまいりたい。

また，「健康長寿のまち・京都」の取組については，いよいよ5月に市民会議が正式に設立され，本格的なスタートを迎えるが，この取組についても皆様方との連携，協力の下で進めてまいりたい。

現在の委員の皆様での協議会は本日で最後となる予定としており，11月以降，新たな委員の皆様の下でお集まりいただくこととなるが，今日の保健衛生行政を取り巻く諸課題の解決に向け，引き続き様々なお立場や関わりから，本市の取組への御指導，御鞭撻を賜るようお願い申し上げます。